

第2学年 国語科

教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「国語への関心・意欲・態度」
 - ・学習の見通しをもち、主体的に学んでいく姿勢を身に付ける。
- 2 「話す・聞く能力」
 - ・聞く人を意識した話し方、大事なことを落とさないで聞く力を高める。
- 3 「書く能力」
 - ・「はじめ」「中」「終わり」を意識して、伝えたい事柄を順序立てて文を書く力を伸ばす。
 - ・文章を読み返し、推敲する力を伸ばす。
- 4 「読む能力」
 - ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力を身に付ける。
 - ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら大まかな内容をつかむ力を身に付ける。

具体的な授業改善策

- 1 ・毎単元、第1時に学習の見通しをもつ時間を確保し、次に取り組む内容を意識できるようにする。
 - ・「漢字ゲーム」、「読み聞かせ」等、児童の興味・関心をもたせる工夫を行う。
- 2 ・正しい発表の仕方のイラストを掲示して、それを意識して発表できるようにする。また、話の聞き方のよい見本を例示することで、それぞれの力を高めていく。
- 3 ・「はじめ」「中」「終わり」それぞれに書くべき事柄を例示することで構成を意識した文章作りを目指す。
 - ・完成した文章を推敲する時間を確保し、文章を見直し訂正した児童を称賛し全体に広める。
- 4 ・普段から多くの本と触れ合う機会を用意し、児童が本の紹介をする時間を定期的に設け、大事なことを短い言葉で説明させたり、登場人物の気持ちを考えさせたりする。
 - ・読みながら考えたことを書かせることで、思考を可視化させ、思考力の向上を目指す。また、話し合い活動を通して思考を広げ、深める機会を作っていく。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第2学年 算数科

教科の目標

算数的活動を通して、数量や図形についても基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「算数への関心・意欲・態度」
 - ・文章問題など、発展的な問題に対しても意欲的に取り組んでいく意識を高める。
- 2 「数学的な考え方」
 - ・課題に対して根拠を明らかにして自分の考えを説明する力を身に付ける。
- 3 「数量や図形についての技能」
 - ・長さや時間、体積などについての意味を正しくとらえ、生活や学習の場面で目的に応じて適切に使う力を身に付ける。
- 4 「数量や図形についての知識・理解」

具体的な授業改善策

- 1 ・基礎基本を定着させることで、算数についての自信を身に付けさせ、意欲的に課題に取り組ませる。
- 2 ・「～だから、～です。」と根拠を明らかにした話型を提示し、考えを発表する際にそれを活用して、自分の考えを伝えるようにさせる。
 - ・2人組、グループ学習などの学習形態を授業に取り入れて伝え合う活動を意図的・計画的に行う。
- 3 ・長さや時間、体積などについては、学校生活と関連した問いかけを意図的に行い、既習事項の定着を図る。
 - ・ベーシックタイムの活動を通して、基礎基本の定着を図るとともに、児童それぞれの得意・苦手分野を明確にして指導に活かす。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第2学年 音楽科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「音楽への意欲・関心・態度」
 - ・基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付かせる。楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心を持ち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- 2 「音楽表現の創意工夫」
 - ・歌詞の表す情景や気持ちを想像し、楽曲の気分を味わいながら、歌唱できる力を伸ばす。
- 3 「音楽表現の技能」
 - ・楽譜を見ながら、楽曲にふさわしい表現を自ら考え、表現できる力を身に付けさせる。
- 4 「鑑賞の能力」
 - ・楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを、分かりやすく言葉で表す力や演奏を楽しむ意欲を高める。

具体的な授業改善策

- 1 ・教科書の他にも、身近な手遊び歌やリズム遊び、季節の歌や地域の歌などを取り入れる。
 - ・日ごろから、身の回りにある音や音楽に関心をもたせ、学級活動の中に取り入れる。また、学校行事・村行事、地域の福祉施設での交流などで合唱や合奏の発表の機会をもつ。
- 2 ・歌唱前に歌詞について意見を出し合い、その言葉の意味を考えたり、歌い方の強弱を考えたり、曲にどのような気持ちを込めて歌うかを考えたりしながら歌い方を細かく指導していく。
 - ・お互いの声や楽器の音の重なり合いを聴きながら合わせて演奏できるように、聴き合う活動を充実させる。
- 3 ・音程を正しく取ることや、リズム打ちが苦手な児童もいるため、交互唱やリズム遊びを取り入れ、よく聴いて歌う活動を通して、調和のとれた歌唱で表現させる。
- 4 ・楽曲を聴いて思い浮かべた内容を発表したり、写真や実物の楽器を見るなど、情景を想像しながら聴いたりする。
 - ・曲に合わせて体を動かしたり、曲に出てくる楽器を音楽に合わせて鳴らしたりして、拍の流れや音楽の特徴を感じながら楽曲を鑑賞させる。

評価・修正（年度末）

第2学年 図画工作科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「造形への関心・意欲・態度」
 - ・造形活動を好み、楽しんで作品を制作している。様々な表現手法を知った上で、より意欲をもって作品制作に打ち込めるようにさせる。
- 2 「発想や構想の能力」
 - ・自分が考えたことを素直に言葉にし、伝えることができる。新しいアイデアを試すことに積極的である。様々なアイデアを出し、作品に生かすことができるようにさせる。
- 3 「創造的な技能」
 - ・自分の表現したいことに合わせて道具を工夫して使用することができる。新たな道具の使用を学んだり、様々な技法を身に付けたり、表現の変化の幅を広げることができるようにする。
- 4 「鑑賞の能力」
 - ・友達の作品の良さに気づき、素直に言葉にすることができる。自分の作品や友達の作品からよさや工夫を見つけ出す時間を確保し、様々な発想や作品表現があることを知らせていく。

具体的な授業改善策

- 1 ・様々な手法での作品制作を行い、造形への興味を高めていく工夫をする。単元の導入では、視覚資料を効果的に用い、具体的なイメージをもって取り組めるようにする。
- 2 ・絵本などを紹介することで、プロの作品の工夫やよさを知る機会をもち、より豊かに発想を広げられるようにする。児童のつぶやきやアイデアの記録をとり、後の学習（作品制作・鑑賞・評価等）に生かせるようにする。
- 3 ・題材に合わせて道具を精選し、丁寧にその扱い方を学べるようにする。また、以前使用した道具を応用した表現方法を積極的に取り上げ、活用できるようにする。
- 4 ・作品鑑賞を通してお互いの作品のもつ魅力やよさを感じ取らせていく。付箋などに記入し、言語化することで、多様な視点や感じ方を知り、受容できるようにする。

評価・修正（年度末）

第2学年 生活科

教科の目標

具体的な活動や経験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

伸ばしたい力（観点別）

1 「生活への意欲・関心・態度」

- ・自分や身近な人々のよさだけでなく、地域のよさを自ら発見したり、調べたりする力を伸ばす。

2 「活動や体験についての思考・判断」

- ・自分と身近な動植物などの自然とのかかわりに関心をもち、それを自分たちの遊びや生活に生かす力、また活動や体験の中で感じたことを言葉や絵などで表現し、周りによさを伝えたり、発信したりする力を養う。

3 「身近な環境や自分についての気付き」

- ・自分が住んでいる地域のことについて興味・関心をもち、その学習を進める中で、自分が育った地域が国内でも貴重な存在であり、かけがえのないものであることに気付けるようにする。
- ・自分の成長を実感させ、自己肯定感を高める。

具体的な授業改善策

- 1・地域探検や調べ学習を計画的に設定することで、地域の知らなかったことやよさに気付き、地域への関心を高める。
- 2・植物の生長や変化に目を向け、気付いたことを表現する力を養うために、農園で育てている野菜の観察日記を定期的を書く活動を設定する。
 - ・観察する際、どこをどのように見て記録したらよいか、具体的に（色・形・大きさ・高さ・太さ・重さ・長さ・触った感じ・におい・数等）提示し、観察の仕方と記録の仕方を習得させる。
 - ・単元のまとめとして、調べたことを発表したり、模造紙にまとめたりする活動を通し、見る人のことを考え、調べたことや気付いたことを工夫して発信できるようにする。
- 3・母島の植物名とその特徴を知るために「植物カルタ」の学習を取り入れる。
 - ・異年齢の集団のつながりの重要性から、現在も実施している2年生と1年生との交流（学校探検・南崎校外学習等）の内容を精査し、楽しさを実感できるような活動を継続する。
 - ・自己肯定感を育てるために、「わたし大すき みんな大すき」の単元で自分自身の成長に気が付き、成長を実感することのできる活動を行う。

第2学年 体育科

教科の目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

1 「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」

- ・学習において、友達と協力し合うことや友達の動きのよさを見付けること等を通して、一緒に運動することの楽しさを味わい、進んで学習に取り組もうとする態度を養う。

2 「運動や健康・安全についての思考・判断」

- ・「どうしたらもっと上手に動けるか」「どんな動きが良かったのか」など、自分の運動について動き方を工夫しようとする力を伸ばす。

3 「運動の技能」

- ・様々な運動の技能を身に付けさせると共に、体力テストの結果から、適切なボールの投げ方を身に付けさせ、「投げる能力」をはじめ「捕る能力」「蹴る能力」をさらに伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・お互いを認め合う態度を養い、そこから頑張ろうとする態度を育てていくために、ペアや4人組、全体での体ほぐしやリズム運動等を取り入れる。

- ・友達のよいところに気付けるよう、友達の活動を見て、気付いたことを発表する機会を作る。
- ・意欲的に学習に臨めるように、音楽を流しながら活動する場面を設定する。

2 について

- ・良い動きの称賛や示範により、どのような動きが良いのかを意識付ける。
- ・チームでの作戦タイムを設けることで、自分たちで主体的に考え、実践に移す経験を積ませる。

3 について

- ・自分の記録に挑戦したり、友達と競ったりする場面を設定することで、技能を向上しようとする意欲を高める。
- ・投げる能力を高めるために、教具の準備や投げる練習の工夫を行う。

評価・修正（年度末）

成果

課題